

文化女大家政 ○由利 素子 成瀬 信子

目的 織物の表面性状を視覚によって評価する場合、織物の種類と評価面積の大きさによって、どのように違うかを官能検査によって調べた。

方法 試験布はベルベット4色（パイルはレーヨン）と光沢の大きい“デフォール”（ポリエステル朱子織物）6色とした。標準電光下で見る試料の高さを常に6 cm一定とし、試料幅を2 cmから1.5 cmおきに5段階8 cmまで変え、一対比較法（順序効果のない場合）で5段階評価、被検者15人により、表面性状11項目について評価し、比較検討した。

結果 1. 添毛織物のベルベットも朱子織物の“デフォール”も、色によって、試料幅による評価の傾向はかなり異なることがわかった。

2. 黒の場合、ベルベット、“デフォール”共に厚み感の分散比が最も高く、ベルベットより“デフォール”の方が試料幅の差による厚み感をよく見わけ、試料幅が狭い程、厚み感大きく、幅が大きくなるにつれて、厚み感小さく見える。立体感、黒さについてもベルベットより“デフォール”の方が順序よく差を大きく見わけていて、両者共に幅が2 cmの一番狭い試料を一番黒いと判定している。

3. つやの大きさ、つやの良さについては“デフォール”では色の違いに対する評価の差は小さいが、ベルベットは色によっては評価の差が明らかで、特に茶系では明らかに2 cm幅より8 cm幅の方がつやが大きく、良いと評価している。